

# 平成26年度第1回花巻市大迫地域協議会

## 会 議 録

日 時：平成26年5月29日（木）午後2時～4時10分

場 所：花巻市大迫総合支所 2階大会議室

### 会議次第

《委員に対し辞令交付》

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 花巻市大迫地域協議会委員の紹介
- 4 地域自治区及び地域協議会の概要説明
- 5 花巻市大迫地域協議会会長及び副会長の互選について
- 6 会長あいさつ
- 7 協議事項
  - (1) 花巻市立大迫中学校の校舎改築について
  - (2) 大迫地域の課題について
- 8 その他
- 9 閉 会

出席者

委員15名中14名出席

委員区分	団体及び役職名	委員氏名	住 所	出 欠
(1) 公共的 団体が推薦 する者	花巻農業協同組合 女性部大迫支部長	菊 月 美智子	亀ヶ森	×
	花巻市大迫町森林組合 大迫事業センター フォレストリーダー	小 松 正 幸	内川目	○
	花巻商工会議所大迫支部 会長	山 影 義 一	内川目	○
	花巻市社会福祉協議会 大迫支部 支部長	佐 藤 格	亀ヶ森	○
	花巻市大迫地域区長会 会長	藤 原 秀 基	内川目	○
	大迫地区コミュニティ 振興会 副会長	村 田 俊 樹	外川目	○
	内川目コミュニティ会議 会長	伊 藤 修 悦	内川目	○
	外川目地区コミュニティ 会議 会長	浅 沼 利 一 郎	外川目	○
	亀ヶ森地区コミュニティ 会議 会長	高 橋 正 克	亀ヶ森	○
(2) 学識経験を有する者		小 松 健 次 郎	内川目	○
		浅 沼 雅 代	大 迫	○
		菅 原 美 智 子	大 迫	○
		佐々木 一 夫	内川目	○
		松 坂 一 人	外川目	○
		小 林 忠 久	大 迫	○
(3) 公募による者		なし		—

花巻市教育委員会（説明者）

教育長

佐 藤 勝

教育企画課長

市 村 律

教育企画課学校施設係長

菊 池 洋 和

大迫総合支所

大迫総合支所長

藤 原 宏 康

地域振興課長	小 国 朋 身
市民サービス課長	佐 藤 富次男
地域支援室地域支援監	川 村 優
地域振興課長補佐	浅 沼 文 博 (欠席)
同上	高 橋 一 也
市民サービス課長補佐	小 林 清
地域振興課主任主査兼地域づくり係長	
	阿 部 靖

## 1 開 会

(進行) 大迫総合支所地域振興課 課長 小 国 朋 身

## 2 あいさつ

(あいさつ) 大迫総合支所長 藤 原 宏 康

## 3 花巻市大迫地域協議会委員の紹介 (説明) 小国地域振興課長

## 4 地域自治区及び地域協議会の概要説明 (説明) 小国地域振興課長

## 5 花巻市大迫地域協議会会長及び副会長の互選について

(進行・仮議長) 藤原大迫総合支所長

○ 会 長 佐々木 一 夫 委員に決定

○ 副会長 松 坂 一 人 委員に決定

## 6 会長あいさつ

佐々木会長、松坂副会長あいさつ

## 7 協 議

### (1) 花巻市立大迫中学校の校舎改築について

(佐々木会長)

花巻市立大迫中学校の校舎改築について事務局より説明を求めます。

説明をいただく前に、今までの経過について(まとまらなかった経過等)説明はいりませんか。

(委員より)

説明を願いたい。

(会長)

初めての委員もおられるので、説明をお願いします。

(藤原大迫総合支所長)

わかりました。経過等を含めて、教育長も来ていますのでごあいさつをいたしますのでよろしくをお願いします。

(佐藤教育長)

大変お忙しいところお時間をいただきましてありがとうございます。教育委員会教育長の佐

藤でございます。大変お世話になっております。

日頃から、それぞれの立場、地域で教育行政あるいは学校教育に対しましてご支援いただいておりますことに対して御礼申し上げたいと思います。また、今日は大迫の地域協議会の協議の場に参加させていただき本当にありがたいと思っております。

ご案内のとおり、昨年は大迫中学校改築について様々ご提示申し上げる方法、時期及び内容について大変課題が多くてご迷惑をおかけし、現在その作業を休止してきた経緯がございます。そういった経過につきましては、私のほうからお話しした後、課長の市村よりご説明申し上げます。

何れ将来を担う子供たち、保護者、地域の皆様については、昨年度以来の休止期間を作ってしまったということで大変申し訳なく思っております。

ご承知のとおり大迫中学校の老朽化につきましては極めて深刻であり、一刻も早く子供たちが伸び伸びと学んで、知徳体にわたって育つ環境を整備しなければならないと思っております。ですから、この当地域の主要な方針について様々ご協議いただき、ご意見をいただく地区の最高機関の当協議会において、是非この大迫中学校の改築を地域振興や人づくりという立場から改めましてテーマとして取り上げていただきまして、是非お力をいただければということで今日参上したしだいです。

申し上げるまでもなく、大迫地域は近代以来の素晴らしい教育風土、教育財産があることも私は十分認識しておりますし、幾多の有為な人材を輩出してまいりました。そういった一方の中でこの社会の変化が非常に激しくて、特にもこの少子化あるいは子供たちを取り巻く教育環境というものについても大変心配な状況にあります。

何れ子供たちをどう育てるということは、大迫に限らず花巻全体の喫緊の課題であります。

改築に際しましては、地域の皆様のご意見をできるだけ尊重し、その改築にできるだけ早く反映させてまいりたいと思っております。具体的にはお力を借りて諮問申し上げご答申をいただくという手法を取らせていただきたいのですが、先程もお話申し上げているように、改築については学校の老朽化の度合いと休止期間をおいたということで大変身勝手な部分もありますが、出来るだけ早く進めたいと思っております。

どうか、皆様には大変ご多用の中お時間をいただく形になりますけれども、よろしくご指導とご理解をいただければと思います。まず説明に先立ってのごあいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。

(市村教育企画課長)

教育企画課長の市村です。今日お配りしました資料の説明をする前に、これまでの経緯というお話がございましたので教育委員会の方から説明をさせていただきます。

大迫中学校につきましては、建設から相当の年数がたっておりまして、外壁の剥離とか屋上防水の劣化、内壁、床面、天井の亀裂や剥がれなど非常に老朽化が激しく、設備の面におきましても給排水管の腐食とか暖房効率の低下など安全衛生の確保が非常に困難な状態にありましたことから、良好な教育環境を展開できるように整備するためには大規模改造ではなく全面改築が必要だということで新市になって作り直した総合計画で改築という形での主要事業として位置付けられたところがスタートでございます。

大迫中学校の改築につきましては、合併後のスタートの時点では、今の中学校用地への建設を基本に検討しましたがけれども、学校の敷地の一番高いプールのところから校舎、校庭の部分で6メートル以上の高低差があるということとか、山の斜面を流れた水が一番低い校庭の部分に流れ込んだりするということがございまして、環境を整備しても校庭の排水の効果が十分に

得られないのではないか、あるいは耐用年数が短くなるのではないかとということがございまして、その時点では新校舎建設の適地とは言い難いということで、その候補地に替わる建設用地というのが一番大きな課題となっていました。

こちらの地域協議会におかれましても、平成22年度に諮問・答申という形ではなくご意見をお伺いするというので、新しい大迫中学校の改築の場所について協議会にご意見を6月と9月の2回お聞きした経緯がございました。

色々な場所の名前は出しましたが、最終的には便利さを含めてより良い環境となる場所に整備してほしいという意見の一致はありましたが、具体的な建設場所につきましては、こちらの協議会でも平成22年の時には一本化できなかったという経緯がございまして。

中山間地に位置している地域であって平坦な地を見出しにくいという地域事情もあったと思いますけれども、今から4年前にはそのような経緯がありました。

市の内部でも現在地に替わる建設候補地を検討しましたが、市が保有する公共用地ということで、例えば旧外川目小学校の用地がありますけれども、今の中学校よりも更に市街地から離れるということ、面積自体はかなりありますがご案内のとおり法面が相当あり、有効面積となると相当狭いということになります。

また、亀ヶ森小学校の場所を考えても小学校用地としても変形な場所で面積も狭いということもございまして、昨年の秋の時点からお話しているのが、その前から候補地として名前があがっていました大迫高校の場所が一番教育環境とすると良いのではないかとこのことで、昨年9月の補正予算に基本設計の予算を計上したところでございまして。その後、市政懇談会とか区長会、小学校、中学校のPTAの役員の方々とお会いして考え方を説明したところでございまして。

10月にそのような活動をして、当協議会にも10月15日に、大迫地域の区長会に22日にお邪魔してご意見もいただきました。その時に、特に高校に関わっている方々から高校と中学校の施設を共用することや大迫高校の存続への影響などということで懸念する声はございましたが、高校敷地への建築に明確に反対だという意見はなかったとの当時の判断がございまして、地域の大方の理解は得られたと判断できたので移転改築について高校敷地を借用させてほしいとの要望書を11月に県教委へ提出いたしました。

その後、要望書を提出した後に大迫高校におきまして、高校の保護者とか同窓生の方を対象とした大迫中学校の移転改築に関する説明会が開かれまして、第2回目の12月だったと記憶しておりますが、県教委からの要請によりまして市教委も参加しまして考え方を説明したところでございまして。

結果といたしましては、殆どが反対意見でありました。

その理由といたしましては、「高校がなくなることを見越した計画だ。」とか、「高校敷地内への具体的な配置計画、中高連携による具体的な取り組みが見えない。」とか、「高校と中学校が施設を共用できるはずがない。」、「現在の土木技術をもってすれば今の中学校の場所にも建てられるはずだ。」という意見など殆どが反対意見でありました。

この説明会の結果を受けまして、県教委の方からは、高校の関係の皆さんの理解を得るにはもっと丁寧な説明が必要だと思われ、高校の教職員との話し合いも必要とのご指導をいただき、その時に高校の同窓会の関係の方々からの申し出が県教委の方であって、その時期が丁度市長選を控えている時期でありましたので、そのタイミングを判断するのは市長選後にしてほしいとの申し入れを県教委の方が受け入れまして、市教委もそれを受け入れ、その時点で動きを凍結したということで、そこから先程教育長が申し上げた休止という形で中学校建築について

の場所の検討は止まっているのが実情でございます。

その後、上田市長、佐藤教育長が就任され、大迫中学校の改築につきましては、地域の意見を十分に聴いて理解を得てから進めるようにとの指示を受け、3月以降に大迫総合支所と今後の進め方について協議をしてきまして、本日お配りした資料に基づいてこれからの考え方をご説明させていただくところでございます。以上が前回の地域協議会そして、昨年秋以来の動きであります。

引き続き、今日お手元に配布しました資料の内容を説明させていただきます。

大迫中学校の改築事業につきましては、先程も申し上げましたように建設場所を決定することが改築事業を進めるうえで大きな課題となっているところでございます。

その課題を解決するためには、地域の皆さんに十分話し合っていたいただいうえで、地域の総意として建設地を選定していただきまして、地域の意向を踏まえて教育委員会で検討し最終的には市長と協議して決定するという方法で進めてまいりたいと考えております。その流れを示したのがこの資料でございます。

中学校の建設場所の決定は教育委員会としての課題に留まらず、大迫地域の重要課題でありますことから、地域の総意を集約していただく方法について大迫総合支所と協議を進めてまいりました。

その結果といたしまして、場所の決定は地域の重要な課題であり議論の入口、出口は大迫地域協議会とすべきであること、また、具体的な方法として建設場所については、地域協議会に諮問・答申をするという形式が最も良い方法であると教育委員会と総合支所との共通の認識でありましたので、これからはそのような形で進めさせていただきたいと考えているところであります。

建設場所について、地域協議会で議論を進めていただくうえで、地域の皆さんの総意を集約して決定していただく一つの方法として住民主体の組織を立ち上げていただき、改築に係る意見交換を行いながら、それらを踏まえて地域協議会として中学校の建設場所を選定していただく方法が良いのではないかと考えこれを例示したものでございます。

大迫総合支所と教育委員会の役割としては、例えば住民組織の設立支援とか日程・会場の調整など運営の面では総合支所がその役割を担い、教育委員会は現在の中学校の施設の状況や建設の候補地の概要、校舎、屋内運動場の配置の案などの資料を提供いたしますとともに、それらの説明を行うこと等を想定しておりますが、この方法にとらわれず、大迫地域の総意として中学校の建設場所を選定していただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

なお、資料の※印で記載したアンケートにつきましては、建設場所を選定するうえで必要に応じて実施する必要もあるのではないかとこの意味で記載したものであります。

地域協議会で選定していただいた建設候補地について、教育委員会で検討したうえで市長と協議して大迫中学校改築事業計画を決定し年次計画を定めて所要の予算を計上してまいりますのでよろしく願いいたします。

参考までに、校舎改築事業の標準的な工期を資料の下3分の1に記載しておりますので、今後のスケジュールの参考にさせていただきたいと思っております。

以上長くなりなりましたが、今までの経緯を含めまして大迫中学校改築事業の今後の進め方について説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(会長)

質問を受けますが、前段の部分（経過について）とこの資料についてと分けて質問、意見を受けたいと思っております。自由にどんどんお話をいただきたいと思います。

(佐藤格委員)

今までの経過について一つ確認しておきたいです。

協議会で判断するのに、どこまではその説明した段階の方々に承諾というか同意をもらっているか、中学校のPTAの方にも説明をされ色々な段階のところまで進んできていると思いますが、今残されている課題というのが今一つピンとこない。

どこが、どのような進み具合の中で問題になっている部分を明確にしてもらえば、これから進めていく過程や問題になっている事項をわかりやすくしていただければと思います。

場所の問題と住民の感情問題という部分が二つありそうな感じがする。現在地でどうしても不適切だからという部分はわからないわけでもないですが、今の高校の敷地に行った時にスペース的に間に合っているのか、若しくは高校存続問題に絡まっているものなのかを説明していただきたい。

(会長)

一問一答をお願いします。

(教育企画課長)

課題の部分でありますけれども、昨年度説明して市とすれば高校の場所が一番良いと考え、そして県教委の方に内々に話をしたところ、「まず地域の理解を得るのが先です。」ということでした。詳細な学校との打ち合わせとか、県教委との打ち合わせとか、12月の高校との説明会にも言われましたが配置計画もないということだったですけれども、まずあの場所に建てて良いかということのゴーサインがないと協議には入れないというお話がありました。

私達も非常に苦しいところもありましたが、細かい内容が説明できない中で、この場所に建てても良いかを住民から合意を取ってください。それがないと詳細な協議には入れないというのがスタート時点での話でした。そういう意味で、10月の時点ではこの場所で良いかということで具体的な内容も示さない形で行いましたが、配置がなければわからないということもありましたので、先程今後の進め方でも言いましたけれども、建設候補地がそうそうあるわけではなくて、今まで出たような場所（現在地、旧外川目小跡地、大迫高校）ですけれども、それぞれの場所について配置するとすれば、こういう配置になることを示さないでたぶん皆さんも良いかどうかの判断もつかないだろうこともありますので、それらを示しながら課題になっているのは建設場所として何処がよいのでしょうか、ただ選択肢はそうそう多くはないでしょうけれどもということで、色んな求めがある内容の情報も提供しながら去年の秋の場合は高校の場所でよいのでしょうかを進めましたけれども、今回はそこから一步戻りまして、高校の場所ありきとそこからスタートするのではなく、どの場所がよいのでしょうかというところからもう一回スタートをさせていただきたいということでございます。

何処から了解を得たということではなくて、去年の秋の地域協議会、市政懇談会ではなかなか平地がない中で一番良い場所教育環境とすれば大迫高校の場所だと思うということ、5万平米という敷地もあるので、そこを高校と一緒に活用させていただきたいということでのお話をしました。上田市長からはそういうやり方ではなくて、しっかり情報共有をしながらやった方がよいのではないかとということで、一步戻る形にはなりますけど、我々も今回は高校の場所ありきでの議論をお願いするものではありません。

今の場所、高校の場所あるいは旧外小の場所という形で何処がよいだろうということを様々な面から議論していただいて場所を選定していただきたいということでございます。

(佐藤格委員)

今の課長さんの説明の中で、ポイントとなるグレーな部分は、説明されて高校の敷地に進め

なかった一つの要因には、高校存続の問題が絡まってきたことであると思われます。

その過程の中で市長選挙があり、新しい市長さんは大迫高校を是非存続させていきたいと前の教育長さんが説明した当時とは若干現状が違ってきているのではないかなと感じる気がする。

高校を存続させながら、合わせて高校の敷地内に中学校が入ること、更に問題となる部分の説明を加えて教育委員会の方針を示してから次のステップに行くという方法も一つの方法ではないのかなという感じがしますが、市長選挙によって状況も変わり県教委も年度が変わるなどしている中で、整理していない問題をグレーのままにして地域に課題を投げかければまた多くの時間を要してしまうと思います。

中学校の現状を考えると、今後2年ないし3年のかかる期間をあのままにしておけないというのがPTAの役員の方々の考えるところではないかなと思います。ですから、一度市長選挙が間に入った部分をどう整理していくかという部分もないまま地域協議会で是非の判断するのはかなり時間が切迫している中で時間を要するのではないかと懸念するところもあるがそういう部分ではどうか。

(教育企画課長)

昨年の高校の説明会の時にも県教委の教育次長が重ねて申し上げましたが、高校の存続と中学校をこの場所に建てて良いかというのはリンクしていない話であることは説明会の始まりと終わりにお話しいただいたところです。

この時点では、配置計画もないということもありましたので、それはやはり配置計画がないと建てられるかわからない、あとはその時には、あの場所は良いと思うけれども、体育館もちゃんと中学校専用のもも建ててほしいとのお話もありましたけれども、想定している大迫中学校の将来の規模の建物が、校舎、屋内運動場とかがあの場所に納まるかというのを示したうえで何処が良いかということで、あの場所に高校がある前提で敷地を活用させてもらうということで、そこは最初から高校がなくなるの見越していることとの前提ではありません。

県教委も高校があることを前提で大迫地域の土地の形状とかを考えて、あとは中学校の場所も県教委でも見たそうですけれども、この場所は少し老朽化が相当激しいなということも見てのお話だったので、今回はそのような資料も複数示しながら、場所として何処がいいのかという所を決めていただきたいところです。

高校再編と絡めると、新聞報道のありましたように、これからの方針を今年度決め来年度から個別の計画を立てるとの県教委の方針のようですから、そこを見てからということになると相当時間が経つと思いますので、あくまでも、ここは去年とスタンスは変わっていません。

高校がある前提であの場所が候補地の一つということで、先程の佐藤委員からのお話だと、またそこから高校の場所に建てることでの問題を整理してからそこからのスタートとなると、去年私12月に高校の説明会に行ってその場にいましたからあの場の雰囲気はわかりますが、そこからスタートして高校の関係者の方の理解が得られるかということ私は非常に難しいと思いますので、どこが良いかということも含めてご意見を伺ってそのうえで最終的に市長が判断した方がよいのではないかなということですので、高校の場所からの再開ということになると、また非常にハードルが高くなるのかなと考えています。

(会長)

それ以外に。

(菅原美智子委員)

昨年は大変失礼なことを申したかもしれません。反対の立場でしたけれども、前の教育長のお話では、資料が1枚もなかったです。ただただ口頭で高校の敷地に中学校を建てさせてもら

いたいということだったのです。

そして、中高の連携もないとか、それからグラウンドも共用、教室の共用、体育館も共用それではとてもじゃないけど高校生の授業に差し障りがあるし、それから野球などのクラブ活動でのグラウンド使用等にも支障があるとのこと。そういう関係上、高校の敷地に中学校は無理ではないかということで、申し訳ありませんでしたが反対をいたしました。お詫びいたします。

それで、12月頃に県教委の課長さん方、高校のPTA同窓会と校長、副校長と交えて最後の話し合いを行いました。

そうしたならば、その前に、同窓会として中学校、小学校のPTAさんからもどんな考えを持っているか一緒に聞いたのです。

そうしたならば、「もうこれ以上あの校舎で学ばせることはもう無理だ、我慢できない。」「現在地で良いから早く中学校を建ててほしい。」との意見があったとのことでした。

そのことを県教委にお話ししたところ県教委もわかってくださりまして、もう一度振り出しに戻って考え直さなければならぬということ、この改築問題の話し合いは終わりにしているうちに選挙が始まりましたのでこの状態になってしまいました。

高校のPTA同窓会は、もう気持ちは決まっています。

一番考えていただきたいのは、これから入る保育園PTAとか小学校PTAというこれから子供さんを中学校に入れるお母さん達の意見も聞いていただきたいと思います。まずそこを大事にさせていただきたいというのが私達の願いです。

(会長)

他にありますか。

(高橋正克委員)

私は、今の大迫高校の位置よりももっと高い総合文化財センターが建っている敷地にあった元の大迫高校に通ったわけですが、高いところから町を眺めながらとてつもない夢物語や地域のことを考え友達と語り合ったことを思い出しながら聞いていました。

やはり私は青年前期の中学生、高校生ぐらいのところでは、大迫をどうしたら良いかなど大きな話がある程度地域を見渡しながらか語り合ってもらいたと思います。

残念なことに、現在は大迫で現在出生者が40人になっていないでしょう。多分この状況が30年～50年で画期的に改善するのも望み薄と思われれます。

今年大迫高校に入学したのが確か26人で、地元から半分入ったとして10人数名でこのような現実を考えれば、小学生、中学生、高校生をどのような環境で学ばせてどうゆう夢を持たせて大きく育ててやりたいか、将来ここに住むか住まないかは二の次で、夢だけは大きく持って学校を終わってほしい気持ちです。そんなことを考えれば、高校、中学校は同じ場所で併存してもそう支障がないぐらいの人数になっている。

それから、前この話が出た時には、高校の教室が空いているのでそこに中学生が入れられてそれで終わりだ、校舎もなにも建ててもらえないのではとの噂までまことしやかに流れたことがあります。

市との懇談会の時にこの質問も出て、「ちゃんと校舎も作ります。」と話はありましたが、更に今日の資料をいただくと、体育館、校庭についての整備にも触れられておりますので、もう一回高校と中学校の関係を見ながらかつての高校ぐらいの高い場所ではないが、ある程度町を眺めながら子供たちが夢を語り合って、それも中高一緒でも可能なのかなと私は思います。

(会長)

他にありますか。はいどうぞ。

(藤原秀基委員)

大迫高校に中学校を建設したいとした時に、最初の説明会の時に口頭だけだったということですが、その後に県教委に了解を得た後でその周りに中学校の校舎、グラウンド、体育館等の配置計画まで作られたのですか。

(教育企画課長)

大迫高校の中のことについては先程申しましたとおり、県教委とともに動きを止める、凍結するとなっていますので、高校関係の方の理解を得られていない中で、詳細な打ち合わせを行うことは一切行っていませんし協議もしておりません。

ただ、これからの流れの中で、今の場所とか高校の場所に建てるとしたならば校舎の大きさとか体育館の大きさとかを配置しながらさないと判断もできなということ、それについて今後は示していきますけれども、ただ高校の場所についてはデリケートな問題なので、県教委と協議しても県教委が良いとなかなか言いにくいところもあると思いますので、その場合は、例えば市教委とすればこのような配置が考えられますとお示しする場合も考えられます。

(藤原秀基委員)

配置構想において、校舎、体育館、プール等がある程度敷地に納まる見込みがないと市でも地域協議会でも住民も判断できないことではないでしょうか。したがって、そのような判断できないことを何処が良いのかと言われても判断のしようがないと思われま。

現在地に盛土等を行い建てるのが一番良いとPTAでは結論が出ていることではないですか。

私は、今日初めて地域協議会に出席してそう感じましたけど。

(教育企画課長)

我々も去年PTAの役員と話し合いもしたところですが、色々な場面で住民の皆さんや保育園、小学校の関係者の方々とも議論して決めていけばということとそのとおりだと思います。

そのような場を設けていただいて、その場で配置するとすればこうなるなどの配置案を私どもが提供しますので、それを見ながら議論していただいて、やっぱりこの場所は無理だとか、この場所が良いとかをご判断いただくのがよろしいかと思っていますので、よろしくお願いたします。

(会長)

色々なところで花火が上がっているが、それをどのようにまとめたら良いかわからなくなっている。

地域協議会として、まず色々な心配をしている団体について、共通理解を図って意思疎通をすることが先のように感じる。でないと、いつまでたっても、あそこだ、ここだとの議論に苛まれる可能性が出てきます。

先程、教育企画課長さんから、出口も入口も地域協議会でとお話があったと思いますけれども、やはり地域協議会に集約をするという形をとりたいものと思ったりもしています。そうすればはじめて教育委員会に対してお答えできるのではないかと思います。

(浅沼利一郎委員)

高校の敷地に中学校の必要な設備を設置できるのかどうかやってみてもいいと思います。

やってみてどうにもならないのであれば、場所を変えればいいと思う。ただ、今の中学校の場所では大変です。

なぜかは、皆さんは気が付いていないと思いますが、バイパスを越えた裏側全部松の木がな

くなっています。松の木があった状態で昨年8月9日に上町全体が水浸しました。そして、体育館側の道路が川のようになり、排水管も溢れて周辺の浸水被害につながったと思っています。

それらを考えると、これから5年、10年子供たちが住めるものではないと私は思いますので大迫高校の敷地内に中学校の必要な施設が納まるのであればそれでよいと思う。

(会長)

今のようなお話も心配している団体が集まった中で是非共通理解を図れば良い大切な問題であると思っています。他にご意見ありますか。

(高橋正克委員)

会長さんは話のまとめ方を心配しているようですが、先程からこれから中学生になる小学生あるいは保育園の保護者がどう考えているか意見を聞くべきだとの話もある。

このようなことを支所の皆さんにお願いして、それぞれ意見を吸い上げてここでもう一回協議会で総合的に判断するなどの手順が必要ではないか。あとは、中学校と高校が同じ場所で授業やクラブ活動を行うとなれば時間割をどう組んでやれば両方成り立つかどうかを学校の先生方に検討してもらえればいいし、部活については全部そこでやらなくても周囲のグラウンド等の施設で分けて行うなどを検討いただければいいと思う。

(会長)

私は生な声を聴きたいと思うような気がするが。

(小林忠久委員)

私は、この中学校の問題を市政懇談会で聞いていた時、先程教育企画課長さんが説明したけれども、現在の中学校は教育環境に良くないとのことで、前の教育長さんも高校が教育環境が良いと説明してきたんですよ。そうゆう前提であると。

それから、賛成、反対の人たちも基本となる条件が一定していない。例えば、ある人は高校廃止を絡めて議論してしまう。結局、それを基本がはっきりしない中で色んな人から意見を聴いても收拾がつかなくなるだけだと思います。ですから、高校の同窓会では反対で、今までは中学校やPTAに話をした時は高校でも良いのではないかの意見も出てきた。

結局意見が分裂している訳です。それは、基本となる条件がわからないためだと思うからです。高校の何処に建つかわからないし面積も十分なのか、それからクラブ活動でのグラウンド使用に支障があるなどの懸念もあることから、そうゆうメリット、デメリットを整理していかないと皆自分思いのまま自分の考えを主張してしまうからまとまらないのだと思います。

私は、高校に入るような子供がいないので意見を述べてもしょうがないと思うが、まちづくりとして考えれば、それぞれの施設をイベント等に活用できるのではと考えられるなど幅広く考えることができます。

子供の教育だけに絞ってやるのか、もっと狭まって今の中学校も高校もダメだと早く建てたいのであればもっと狭い形で設計できると思います。

何処まで広げるかですよ。あと建築まで何回とかかる中でまとめることは時間がかかると思います。

(教育長)

沢山のご意見ありがとうございます。申し上げたところですが、提示した工法、時期、内容の課題が山積した状態になっていて凍結したことが現実な訳でございます。

もう少し課題を整理すると、高校の存続と中学校の建設については、所管する県立と市町村立と基本的に私は別だと思っています。

ただ一方では、高校の存続は是非とも市としてはお願いをして実現するように図っていかなければならない、もう一方では中学校の教育環境をどう確保するか、まずその一点が一番大事なことであり、人づくりあるいはまちづくり文教という観点で適地を選んでまいりたいと思います。

どんな適地であっても、おそらくメリットだけではないと思います。様々な地理的な制約あるとか地質的な構造は皆違うわけですが、そのデメリットとメリットを如何に整理していくか、それまで沢山いただいていたご意見なりご説明した内容で、ここまではしっかり受け止めていただいたという点それは累積して更に続けていかなければならないし、誤解を生んだ点につきましては、もう一回スイッチバックしてそこまで戻りそのうえで子供たちのために工程を組みながらどの手法で持っていくか、そういった点で色々なお願いをしたいと思います。

これが良いのではないかということをお初めから示すことが失礼なことだと思ひまして、工程とか手法については、もちろんここでご理解をいただければ、色々支所とも協力しながら、場合によってはそのような部会等の組織が必要だと思ひますのでよろしくお願ひします。

(会長)

時間的にはどんなタイムテーブルですか。いつごろまでにとかはないのですか。

(教育企画課長)

参考までに資料の下の方に書いております。

普通であれば、設計関係で約1年かかります。校舎の改築と屋内運動場の建築が2年で、場所によっては同時に改築できるなど期間の短縮も考えられますが、標準的な改築については設計、改築、外構関係等の整備を合わせて概ね4年ぐらひはかかるのが通常です。

現在、湯口中学校は基本設計を行っていますが、全部完了する見込みが29年度ですので4年はかかる予定です。また、市長が地域の皆さんとの話し合いの時に話したと思ひますが、場所が決まれば、補正予算に設計費を計上するなどの対応をしたいとしているので、早く決まれば、直近だと9月、次の12月に補正予算を計上して年度途中からでもスタートすることは可能でございます。

(会長)

伊藤修悦委員さんお願ひします。

(伊藤修悦委員)

先程、教育企画課長さんが話したことについて、現在の中学校の敷地が不適當であると住民から意見が出たがなぜ不適當であるかを具体的に住民が理解したかどうかを聞かせてほしい。

個人的には何も無理して土地がないのにあちらこちらに行かないで、現状の土地に建てられるのであればそれでいいと思ひます。

先程浅沼委員さんがお話していましたが、技術的に不可能であれば仕方がないが、もし可能であればその住民の方々に理解していただいて、今の土地に建てるのが良いだろうと思ひます。

絶対ダメだとなれば何処に建てるか他に候補地を選定して選んで議論して皆に問うてからだと思ひますが、大迫高校の場所だけが決まったわけでないので、現在地も含めて地域協議会で議論すれば時間的に省略できるかなと思ひます。

(教育企画課長)

今お話がありましたが、候補地の状況を示す資料も出します。その中で、まず今の場所を検討してダメであれば次を探すのではなく、同じ土俵である場所に建てるのであれば、このような配置になりメリット、デメリットは何と示しながら一つを検討してダメであったから次を検討するのではなく、同じ土俵でそこで再スタートという形で説明したいと思ひますので、そのう

えで皆さんに議論していただければと思います。

(会長)

委員の皆さん、今のまとめ方でよろしいでしょうか。

(佐藤格委員)

今説明の進め方は当初から持っている方法の一つだと思いますが、それでよろしいと思いますが、改築について、湯口中学校よりも年次的に大迫中学校は1年先に進む段取りだったと私は思っていた。

ただ、それはそれとして、地域協議会で全てを解決したものを持って市長が判断することは手法の一つとして大事なことであるが、先程も申し上げましたが、選挙で市長さんの高校についても中学校についても、その方針が明確に住民にこのような計画で進みたいというものをやはり市町村立の中学校であればお示ししていただきたい。

これを持って関係する団体とか色々な方々に説明し、その結果をこの土俵に上げて協議、検討しその了解を取るのであれば良いと思うが、地域協議会の構成する方々が持ち帰って意見を集約するとか、色々な方々からの意見を集約してとなると過去と同じような結果となりかねないかなと思います。

ここは市長さんが変わったタイミングを逸しないで、改めてもう一度同じ方針を示すものなのか、ある程度の市の方針を示していただき協議会でそれで進むかどうかとの議論を行ったうえで、最終的に諮問を受けて決定する形であれば意外と時間がかかりそうに思えるが、実は短い期間で終わってしまうのではないかと思います。

全て協議会で色々な段取りから何かをするとなると、まとめきれないのではないかと私は思っておりますので、一つ意見として申し上げますが考えていただきたいと思います。

(会長)

大事な意見だと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、この協議について終了してよろしいでしょうか。

(教育長)

大変良いご意見をいただいたと思います。

先程申し上げましたように、これからの進め方のいわゆる基本的な工程ものを私自身ないわけではありませんが、そういったことについてもご理解をいただいて、このように進みたいのですがどうですか、このような組織が必要だと思いますがどうですか、スケジュールについてはこれでいいでしょうか、それが具体的なところがなければ前には進まないし、皆さんのご意見もお聞きできないと思います。

具体的にそのようなことに対して着手することについてどのように取り計らったら良いか。

例えば、教育委員会と総合支所と打ち合わせながら、場合によっては会長、副会長さんと打ち合わせをして、一つのモデルを作成したうえで一回お諮りをして具体化していくという方法でよろしいのかをご確認をいただければと思います。

(会長)

今後の進行についての確認はいいですか。

(会場から)

「よろしいです。」の声

(会長)

そのような方法で突破口を開いて、方法的にスタートしたいと思いますがよろしいでしょうか。

以上で、花巻市立大迫中学校の校舎改築についての協議を終了します。

(会長)

それでは引き続き(2)の大迫地域の課題について議題とします。

説明願います。

(小国地域振興課長)

本日、この課題について協議を行っていただくものではありません。今後の協議会での協議予定項目としてお示ししたものです。

資料に基づき、次の5件について説明

1. 大迫総合支所の強化について
2. 地域協議会のあり方について
3. コミュニティ会議のあり方について
4. 大迫中学校の改築について
5. カントリープラザの跡地活用について

(会長)

以上で、(2)の大迫地域の課題についての協議を終了します。

8 その他

なし

9 閉 会